

(4) ツミ

調査期間を通じて5例が確認されました。確認状況は図2-2-6に示したとおりです。

確認位置はいずれも事業実施区域西側の木津川及びその支川流域での確認でした。

確認事例の中には、クマタカやカラスに対して攻撃する事例(写真2-2-4)や、ハンティング等の行動がみられました。



写真2-2-4 クマタカを攻撃するツミ(右上の個体)

(5) ハイタカ

1月から4月までの調査時に7例が確認されました。確認状況は図2-2-7に示したとおりです。

確認位置は事業実施区域を含め木津川流域や垣内川・滝谷川流域等、調査範囲の広域に散在していました。

確認事例は飛翔のみであり、特筆すべき行動はみられませんでした。

(6) ノスリ

a) 出現状況

調査期間を通じて76例が確認されました。確認状況は図2-2-8に示したとおりです。

確認位置は既知の営巣地付近の滝谷川流域で特に多く確認された他、過年度調査で多数の確認事例が得られている事業実施区域付近、上切川、学之堂川流域で多く確認されました。

なお、本年度もこれまでと同様、既知の営巣地(二俣川流域、滝谷川流域)で繁殖活動が行われ、滝谷川流域では3月調査時に交尾行動等が確認された他、二俣川流域では4、5月調査時に抱卵個体も確認されました。

しかし、両地区とも6月調査時に状況確認のため林内踏査を実施した結果、巣内や巣付近で成鳥・雛ともに確認できず、両巣における繁殖活動が中断されたのが確認されました。

各月の確認状況を以下に示します。

【1月】

1月調査時には7例が確認されました。確認位置は事業実施区域を含む調査範囲の広域に散在しており、探餌やハンティングとみられる行動が確認されましたが、繁殖を示唆する行動は確認されませんでした。

【2月】

2月前半の調査時には10例が確認されました。確認位置は木津川流域、馬野川流域、垣内川流域の広域に散在していました。確認情報の中には探餌やハンティングとみられる行動が含まれていましたが、繁殖を示唆する行動は確認されませんでした。

2月後半調査時には2例が確認されました。確認位置は、学之堂川流域及び三谷川流域で、前者はとまり、後者は飛翔のみで特記すべき行動は確認されませんでした。

【3月】

3月調査時には22例が確認されました。確認位置は木津川流域、馬野川流域、垣内川流域及び事業実施区域と広域にわたっていました。確認情報の中には探餌やハンティングと見られる行動が含まれていた他、過年度の調査で営巣が確認されている滝谷川流域で交尾が確認されました。

【4月】

4月前半調査時には2例が確認されました。確認位置は上切川流域から二俣川流域に至る一帯でした。このうち、奥山川～二俣川流域では、直前に出現したクマタカの消失位置付近上空で激しく波状飛翔を行うのが確認されました。これはクマタカに対する威嚇的な行動と考えられます。

4月後半調査時には11例が確認されました。確認位置は木津川流域、二俣川流域、滝谷川・垣内川流域及び事業実施区域と広域にわたっていました。既知の営巣地が存在する二俣川流域では、既存の巣で抱卵しているのが確認されました(写真2-2-5)。また、同じく既知の営

巣地が存在する滝谷川・垣内川流域では、侵入個体を追い出すような行動が確認されました。

これ以外の地域では特筆すべき行動は確認されず、渡りの通過個体と考えられるような長距離を飛翔する事例が複数確認されました。



写真 2-2-5 ノスリの巣と抱卵個体(二俣川つがい)

【5月】

5月調査時には11例が確認されました。確認位置は既知の営巣地が存在する二俣川流域、滝谷川・垣内川流域であり、事業実施区域内では確認されませんでした。二俣川流域では、前回調査時と同様、既知の巣内で座り込んでおり、抱卵(もしくは抱雛)しているのが確認されました(写真2-2-6)。また、同じく既知の営巣地が存在する滝谷川・垣内川流域では、営巣地付近での林内への出入りや波状飛翔、サシバを追い払うような行動が確認されました。



写真 2-2-6 ノスリの巣と抱卵個体(二俣川つがい)

【6月】

6月調査時には6例が確認されました。確認位置は滝谷川流域馬野川流域ならびに事業実施区域一帯でした。このうち奥山愛宕神社に近い事業実施区域で確認された事例は、付近上空を長時間に渡って飛翔し、探餌を繰り返していました。

なお、繁殖行動が確認されている二俣川流域、滝谷川流域で、既知の巣の状況確認のため林内踏査をした結果、2巣とも巣内やその近傍で成鳥・雛ともに確認できず、繁殖活動が何らかの理由により中断されているのが確認されました。

【7月】

7月調査時には、5例が確認されました。確認位置は事業実施区域一帯ならびに垣内川流域でした。このうち事業実施区域内で確認された2例では探餌しているのが確認されました。

b) 巣の状況

6月調査時に繁殖状況の確認も兼ねて二俣川流域、滝谷川流域の営巣地に林内踏査を実施しました。その結果、2巣とも巣内ならびにその近傍で雛・成鳥ともに確認されず、繁殖活動が何らかの理由により中断されたことが確認されました。

このうち、二俣川流域の巣では、巣自体に目立った損傷は見られませんでした(写真 2-2-7:左)が、滝谷川流域の巣では、巣自体が崩れていました(写真 2-2-7:右)。なお、両巣とも営巣木周辺で糞等の確認をした結果、二俣川流域では糞痕等が見られる程度でしたが、滝谷川流域では落下した巣材や糞痕、脱落した羽、卵殻の一部等が確認されました(写真 2-2-8)。



写真 2-2-7 確認された巣(左：二俣川流域、右：滝谷川流域)



写真 2-2-8 営巣木直下で確認された卵殻の一部

(7) サシバ

4月から7月調査時にかけて155例が確認されました。確認状況は図2-2-9に示したとおりです。

確認位置は事業実施区域も含め調査範囲一帯で確認されましたが、事業実施区域の位置する高標高地での確認事例は少なく、木津川流域、馬野川流域、垣内川流域等の山麓部での確認事例が多い状況でした。その中でも前年度調査で繁殖の可能性が示唆された馬野川流域の奥馬野集落付近と木津川流域の妙楽地・滝集落付近での確認が多い状況でした。

確認記録の多い奥馬野集落付近と妙楽地・滝集落付近では、度々林内への出入りや鳴き声、深い羽ばたき等の誇示行動が見られた他、交尾、餌運搬等、繁殖を示唆する行動が多数確認されました。そのため、6月調査時に林内踏査を実施した結果、馬野川流域ではスギでの営巣・繁殖が確認されました(写真2-2-9:左)。

また、木津川流域では妙楽地集落近傍の植林地内にあるヒノキでの営巣・繁殖が確認されました(写真2-2-9:右)。



写真 2-2-9 確認された巣と雛(左:馬野川流域、右:木津川流域)

(8) クマタカ

a) 出現状況

調査期間を通じて199例が確認されました。確認状況は図2-2-10に示したとおりです。

確認位置は既知の営巣地が存在する奥馬野集落東側一帯や、坂下集落南側一帯で多くみられました。馬野川流域では、前述の営巣地を中心に馬野川、左妻川、三谷川等の各流域で見られました。

一方、木津川流域では、坂下集落南側の既知の営巣地付近や学之堂川流域で多くみられ、その他、上切川、奥山川等、木津川左岸側の各支流の流域でも飛翔が多くみられました。

しかし、一部では木津川を超えて右岸側でも確認されました。

事業実施区域は、これら流域の最上流域にあたり、出現頻度は下流域よりは少ない状況ですが、近傍も含め度々飛翔事例が確認されています。

なお、昨年度に引き続き、「奥馬野つがい」と「上切川つがい」が存在していたと考えられましたが、奥馬野つがいについては、昨年度までつがいを形成していた雌成鳥と昨年度途中から出現した雌成鳥が入れ替わって新たなつがいを形成していました。

なお、奥馬野つがいと上切川つがいともに2、3月調査時には既知の営巣地付近に頻繁に出現し、疑似攻撃(突っかかりディスプレイ)等、つがいでの行動が度々確認され、奥馬野つがいでは交尾や造巣行動も確認されました。

しかし、4月調査時以降、巣への出入りもなく、抱卵を行っている様子も見られなかったことから、本年は両つがいともに早い段階で繁殖活動を中断したものと考えられます。

各月の確認状況を以下に示します。

【1月】

1月調査時には12例が確認されました。このうち馬野川、左妻川流域で11例が確認されました。

既知の営巣地付近でとまりが見られた他、同所付近から周辺へ飛翔していましたが、複数個体の同時出現や求愛ディスプレイ等の繁殖を示唆する行動は確認されませんでした。

なお、確認された個体のうち3例は、平成25年12月以前の調査で第3個体とされた雌成鳥(馬野g^{*})でした。一方、木津川、上切川の流域では1例が確認されました。上切川上空で出現した後、既知の営巣地付近を飛翔し、尾根を越えて南東方向へ飛去しました(写真2-2-10)。

※：資料編個体識別票参照



写真 2-2-10 確認されたクマタカ(左：奥馬野・雌成鳥、右：上切川・不明)

【2月】

2月前半の調査時には19例が確認されました。このうち馬野川、左妻川流域では14例が確認されました。

2月11日調査時には、奥馬野集落に近い方の旧営巣谷で2個体がとまっているのが確認され(写真2-2-11)、このうち1個体がスギの枝を携えて飛び回り、近傍のスギ林内に入入りする行動を繰り返しました。

これは、造巣のための巣材搬入というより、繁殖活動を促すための誇示行動(ディスプレイ)の一種と考えられます。

2月12日以降は、東側の既知の営巣地を中心とした行動になり、雌雄による疑似攻撃(突っかかりディスプレイ)が確認された他、V字飛翔、波状飛翔といった誇示行動も確認されました。この時、疑似攻撃を行った雄は平成25年10月調査時に出現した個体(馬野f^{*};写真2-2-12)、雌は1月調査時にも出現し、第3の個体とした個体(馬野g^{*})でした。その後、誇示飛翔を行ったのもこれらの個体と考えられ、この2個体がつがい(奥馬野つがい)を形成していると考えられました。



写真 2-2-11 確認された奥馬野つがい



写真 2-2-12 確認された奥馬野・雄成鳥

※：資料編個体識別票参照

一方、木津川、上切川の流域では5例が確認されました。いずれも単独の飛翔事例で複数の個体の同時出現や求愛ディスプレイ、巣材の運搬等、特筆すべき行動は確認されませんでした。

なお、雌成鳥と見られる個体(上切 e^{*})は、複数日に出現し、上切川から学之堂川流域上空での飛翔を確認しました(写真 2-2-13)。

なお、この他に垣内川流域で1例が確認されました。性齢不明の個体ながら幾分若い個体と考えられました。



写真 2-2-13 確認された上切川・雌成鳥

2月後半の調査時には9例が確認されました。

このうち馬野川、左妻川流域では4例が確認されました。いずれも当該の雌成鳥(馬野 g^{*})またはその可能性が高い個体(写真 2-2-14)で、既知の営巣地付近から左妻川流域まで飛翔を確認しましたが、繁殖を示唆する行動は確認されませんでした。

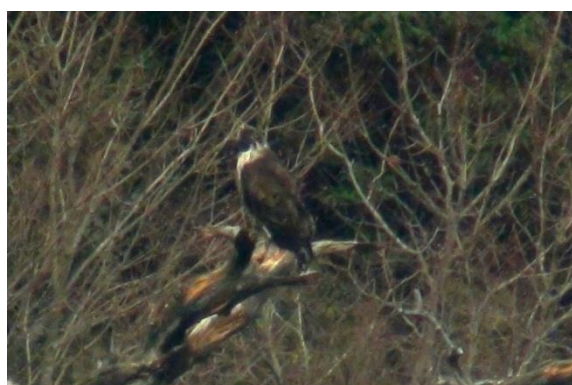


写真 2-2-14 確認されたクマタカ(左：奥馬野・雌?成鳥、右：奥馬野・雌成鳥)

※：資料編個体識別票参照

一方、木津川、上切川の流域では5例が確認されました。5例のうち3例が木津川右岸側での確認であり、特に繁殖を示唆するような行動は確認されませんでした。妙楽地集落近傍で出現した個体は、欠損の状況から2月前半に出現した雌成鳥(上切 e^{*};写真 2-2-15)であり、坂下集落近傍で出現した個体が、その後の調査の結果、当該の雄成鳥(上切 g^{*};写真 2-2-16)と判断されました。



写真 2-2-15 確認された上切川・雌成鳥



写真 2-2-16 確認された上切川・雄成鳥

【3月】

3月調査時には81例が確認されました。このうち馬野川、左妻川流域では44例が確認されました。

これらは概ね既知の営巣地付近での確認であり、頻繁な飛翔やとまりの他、交尾や頻繁な巣への出入り、巣材搬入、産座の整備と見られる行動(写真 2-2-17)が確認されました。

なお、3月24日調査時には雌成鳥と見られる個体(馬野 g^{*};写真 2-2-18)がV字飛翔を行いながら左妻川最上流域の事業実施区域付近まで飛翔しているのが確認されました。



写真 2-2-17 確認された巣(奥馬野つがい)



写真 2-2-18 確認された奥馬野・雌成鳥

※：資料編個体識別票参照

一方、木津川、上切川、学之堂川の流域では 37 例が確認されました。

3 月 23 日調査時には、学之堂川流域の尾根付近で頻繁にとまりや林内消失、つがい間の疑似攻撃等のディスプレイが確認されましたが、翌 24 日調査時には学之堂川流域にはほとんど出現せず、木津川流域の既知の営巣地付近で度々 V 字飛翔や波状飛翔、疑似攻撃等のディスプレイが確認されました。

なお、つがいと見られる雌雄は、2 月以前に出現した 2 個体(上切 e, g*;写真 2-2-19)であることが確認されました。



写真 2-2-19 確認された上切川・雄成鳥

【4 月】

4 月前半の調査には 18 例が確認されました。このうち馬野川、左妻川流域で 7 例が確認されました。

3 月調査時と同様、概ね既知の営巣地付近での確認で、本種の抱卵期であるにもかかわらず、巣に入ることはなく、近傍でのとまり(写真 2-2-20)や飛翔事例のみでした。一時的に V 字飛翔や疑似攻撃等のディスプレイが確認されましたが、その後特筆すべき行動はみられませんでした。

一方、木津川、上切川、学之堂川の流域では 11 例が確認されました。確認位置を見ると、木津川と上切川等の支川流域に散在しており、当該つがいの個体も出現しているが(写真 2-2-21)、3 月調査時に確認が集中した既知の営巣地や学之堂川流域尾根付近への集中は見られませんでした。

また、繁殖を示唆するような行動はみられませんでした。



写真 2-2-20 奥馬野つがいのいずれか



写真 2-2-21 確認された上切川・雄成鳥

4 月後半の調査時には 25 例が確認されました。このうち馬野川、左妻川流域で 16 例が確認されました。

既知の営巣地付近やその西側で飛翔やとまり(写真 2-2-22)が度々確認されました。雌雄での飛翔や、サシバからの攻撃を確認しましたが、巣への出入りや巣内での行動は全く確認されませんでした(写真 2-2-23)。

一方、木津川、上切川、奥山川の流域では 9 例が確認されました。上切川流域を中心に学之堂川、奥山川の比較的上流域で飛翔事例が確認されました。

雌雄(写真 2-2-24)で連れ立って飛翔し、疑似攻撃(突っかかりディスプレイ)行動は確認されましたが、抱卵や餌の運搬等、繁殖を示唆する行動も確認されませんでした。



写真 2-2-22 奥馬野つがいのいずれか



写真 2-2-23 馬野川流域の巣



写真 2-2-24 確認されたクマタカ(左：上切川・雄成鳥、右：上切川・雌成鳥)

【5月】

5月調査時には14例が確認されました。このうち馬野川、三谷川流域で10例が確認されました。

これまでと同様に、既知の営巣地付近で飛翔やとまりが度々確認され、雌雄2個体で同じ木にとまる事例も確認されましたが、巣への出入りや巣内での行動は確認されませんでした。

一方、上切川、奥山川の流域では4例が確認されました。

今回の調査では、これまで比較的出現頻度が高かった既知の営巣地等、木津川寄りの地域ではなく、上切川や奥山川流域の比較的上流域で飛翔する事例が確認されました。

【6月】

6月調査時には8例が確認されました。このうち、馬野川、三谷川流域で5例が確認されました。

確認位置を見ると調査範囲一帯に散在しており、これまでのように既知の営巣地付近に集中することはありませんでした。なお、6月25日調査時には若い個体の侵入が確認されました。この個体は、おそらく前年生まれの若鳥と見られ、奥馬野集落付近でサシバに追われた後、尾根を越えて槇野川方向へ飛去しました。

一方、上切川、奥山川の流域では3例が確認されました。前述の馬野川流域と同様、既知の営巣地付近等の特定の箇所に確認事例が集中する傾向は見られず、5月調査時と同様に、上切川や奥山川流域の比較的上流域で飛翔する事例が確認されました。

【7月】

7月調査時には13例が確認されました。このうち、馬野川、左妻川流域で8例が確認されました。

馬野川流域では既知の営巣地付近でハチクマの追い回しや、V字飛翔等の行動が確認されましたが、同所付近に集中することはなく、事業実施区域に近い馬野川上流域等でも飛翔を確認しました。

一方、上切川、奥山川の流域では5例が確認されました。馬野川流域と同様に既知の営巣地付近等の特定の箇所を確認事例が集中する傾向は見られず、全体的に分散しており、稀に事業実施区域に近い流域上流部で飛翔する事例も確認されました。

b) 巣の状況

7月調査時に奥馬野つがいの巣(東側)の状況確認のため林内踏査を実施しました。

その結果、もともと積まれていた古い巣材の上に大量の巣材が積み増されているのを確認しました(写真2-2-25)。赤茶けた枯葉が残る枝が多いことから本年度に積まれたものと考えられますが、巣及びその近傍に個体はみられず、営巣木直下にも糞痕や餌の残骸等、幼鳥の存在を裏付ける情報は得られませんでした。

また、営巣しているアカマツは下部で分岐し太い幹が並び立つ格好ですが、巣が載っている方のみ枯死していました。なお、周辺にも大径のアカマツ等は確認されましたが、新たな巣は確認されませんでした。

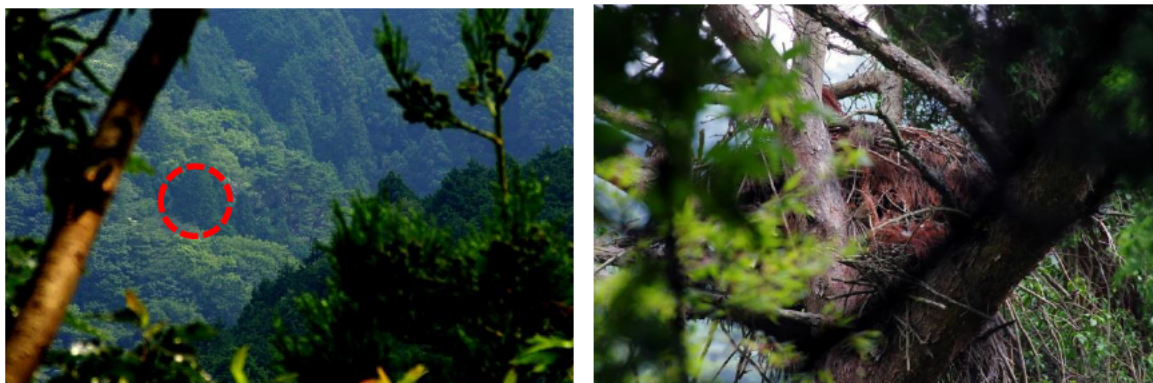


写真 2-2-25 既知の営巣木 (左：馬野川流域 St.23 より、右：奥馬野の既知の巣)

同様に、上切川つがいと奥馬野つがいの別巢(西側)の状況確認のために林内踏査を実施しました。

その結果、いずれの巢も既知の営巣木には昨年の踏査時以降、変化は見られず(写真 2-2-26)、その周辺でも新たな巢は確認されませんでした。



写真 2-2-26 既知の営巣木 (左：上切川つがい、右：奥馬野つがい・西側の巢)

また、3月調査時に上切川つがいの個体が頻繁にとまりや林内出入り等を繰り返した学之堂川流域尾根の西～南面付近で林内踏査を実施しました。

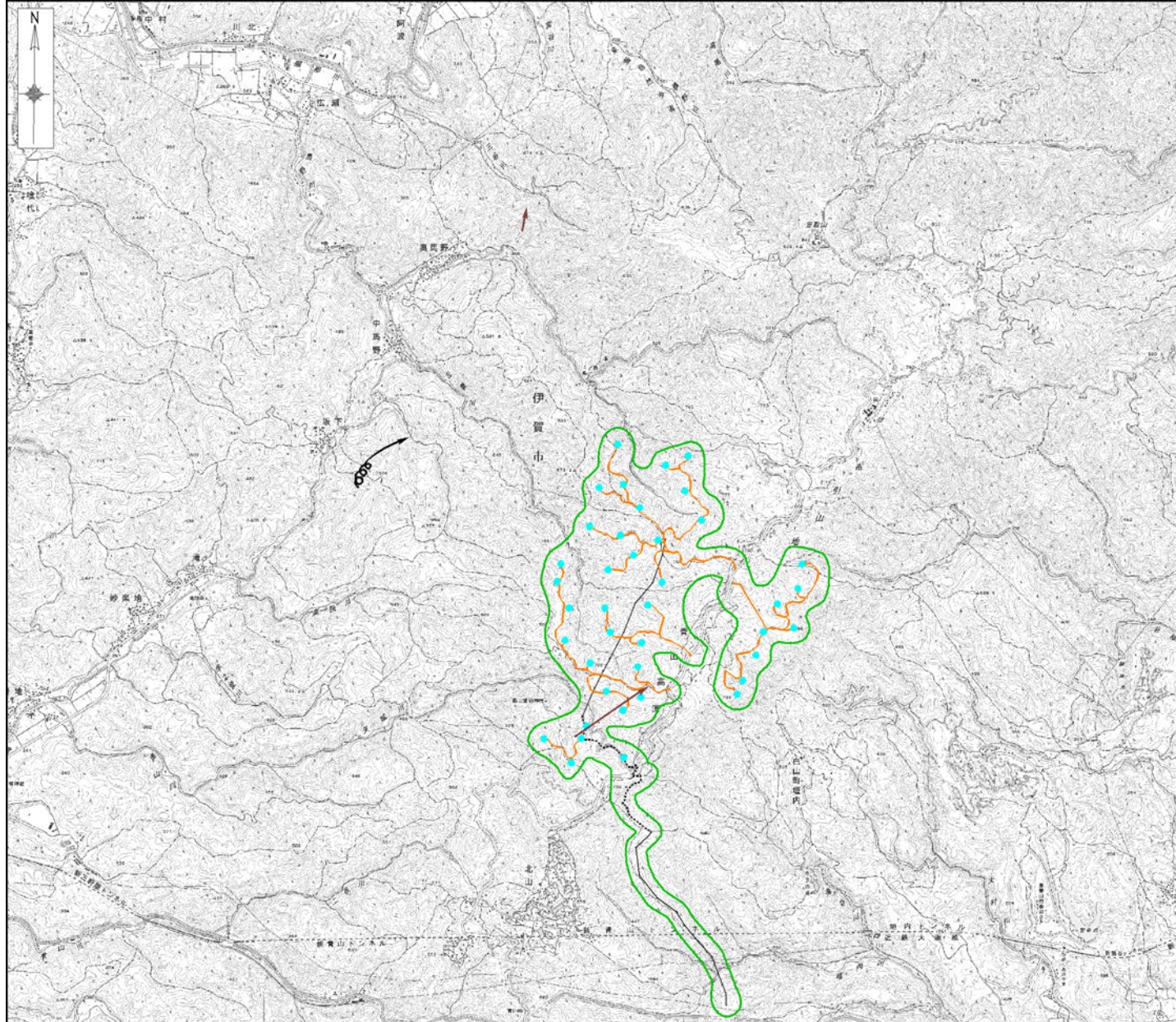
植林の中にパッチ状に落葉広葉樹林が存在し、この中にアカマツの大径木も散見されましたが、新たな巢は確認されませんでした。

(9) ハヤブサ

調査期間を通じて6例が確認されました。確認状況は図 2-2-11 に示したとおりです。

確認位置は、学之堂川や奥山川流域、馬野川流域等で、事業実施区域内での確認事例はありませんでした。

確認事例の中には、ハンティングやクマタカへの攻撃等も含まれていますが、本種の繁殖期間中の確認事例は少なく、特に繁殖を示唆するような行動も確認されませんでした。



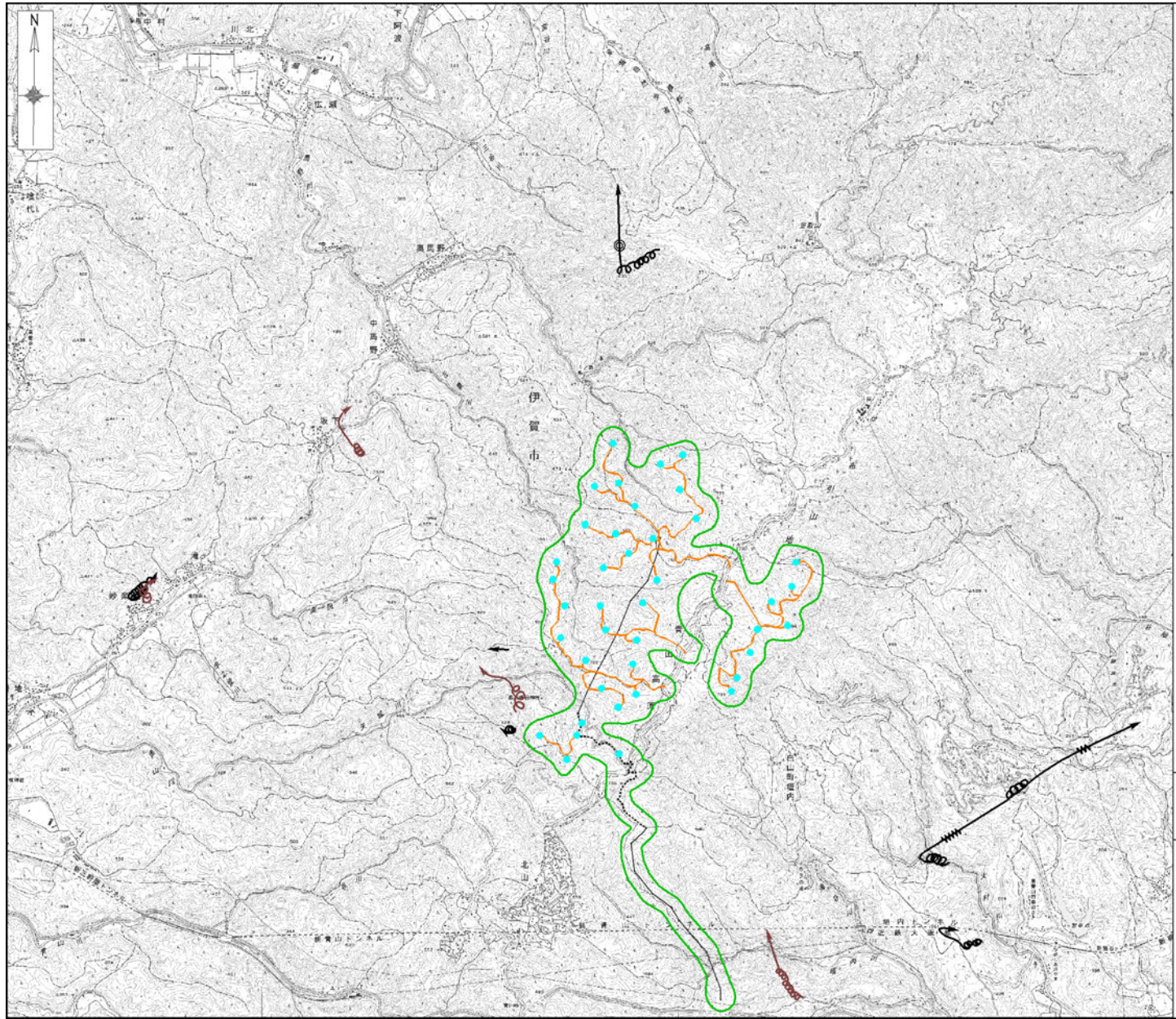
- 凡例**
- 事業実施区域
 - 風力発電所
 - 送電線(架空)
 - ⋯ 送電線(地中線)
 - 管理道路

- 飛行軌跡(不確実なものは点線)
- ← 成鳥・オス
 - ← 成鳥・メス
 - ← 成鳥・性別不明
 - ← 幼鳥
 - ← 若鳥
 - ← ヒナ
 - ← 不明

- (以下、色は飛行軌跡と同じ)
- 〰 ディスプレイ(波状)飛行
 - ∩ ディスプレイ(V字)飛行
 - ⚡ 急降下
 - ✕ 攻撃位置(狩り・つかりを含む)
 - ◎ 旋回
 - 止まり
 - 鳴き声のみ



図 2-2-3 ミサゴ
確認状況



凡例

- 事業実施区域
- 風力発電所
- 送電線(架空)
- ⋯⋯ 送電線(地中線)
- 管理道路

飛翔軌跡(不確実なものは点線)

- ← 成鳥・オス
- ← 成鳥・メス
- ← 成鳥・性別不明
- ← 幼鳥
- ← 若鳥
- ← ヒナ
- ← 不明

(以下、色は飛翔軌跡と同じ)

- ~~~~~ デisplay(波状)飛翔
- +++++ デisplay(V字)飛翔
- ←←← 急降下
- × 攻撃位置(降り・つかりを含む)
- ◎ 旋回
- 止まり
- 鳴き声のみ

500 0 500 1000 1500m

図 2-2-4 ハチクマ
確認状況